

岩手の部活動を支えるPTA

今年のラグビー部は、4年ぶりに全国7人制ラグビー大会出場を決め、2年ぶりに県高校総体で優勝する事が出来ました。勢いをそのままに東北総体でも準優勝となり、今年の結果だけを見ると順調に見えますが、昨年まで決勝へ進む事が出来ず苦しい状況が続いていました。その状況を見てきた私たち保護者は勝ち進む彼らの姿に親としてだけでなく、一番のファンとして良い思いをさせてもらっています。これまでの結果に慢心する事無くひたむきに練習に取り組む、みんなが笑顔で最終目標である全国大会での勝利を実現して欲しいと切に願っています。

高校に入学してから今日に至るまでのことを振り返ってみると、保護者として



▲高総体優勝後集合写真



▲全国7人制大会決定直後の集合写真

慢心せずに前進を

岩手県立黒沢尻北高等学校ラグビー部

保護者 福原 博志

日々砂まみれの練習着を洗い、体作りのご飯を提供する等のサポートをする事で彼らの部活動を支えてきました。グラウンドへ足を運び成長している姿を見ると感慨深く、その遅くなった姿を誇らしく思います。部員たちが成長出来ているのは、私たちの支えだけでなく、日々指導してくださっている監督、コーチの皆様の手厚い指導があつての事です。これからも指導陣と連携しながら部員たちをサポートし、目標の達成に向けて後押ししていきます。少しでも長く試合をしている姿を見せてくれることを祈っています。

彼らの創り上げてきた音楽

盛岡第三高校吹奏楽部部員

保護者 荒井真知子



▲岩手県大会集合写真

彼らの創り上げた音楽は、吹奏楽でありながら、オーケストラのような、教会に響く讃美歌のような、美しく、やわらかく、歌っているかのよう。友の奏でる音を聴き、友を信じて紡ぐ音は、交響詩「海」第3楽章「風と海との対話」にふさわしく、色彩あふれた絵画のように、雄大な「海」となつて会場を包み込んでいました。

昨年度のコングール後、彼らは先輩達の無念を晴らすために、更なる高みの音楽を求め、付度なしで語り合う。根本か



▲東北大会にて



▲第46回サマーコンサート

先生方、何ものにも替えられない、こんなにも愛おしい音楽を娘といっしょに創り上げてくださって、本当にどうもありがとうございます。家族一同、心より感謝申し上げます。

から見つめ直し、基礎を固め、練習を重ねる。理想を求めるあまり、時として、それぞれの方向性が合わず、悩み、苦しみ、何度泣きながら楽譜に所狭しと書き込まれた文字や色は、日々進化してきた証。音楽を創り上げるとは、一音一音に魂を込めるようなものでした。保護者たち家族は、ただ見守ることしかできません。

そして集大成となつた今年の東北大会後、娘たち3年生は、この創り上げた音楽を後輩に託し、引退しました。慰めや労いの言葉をさがす親に、「後悔はない」と言いきつた娘。「ここまで創り上げてきた音楽は、みんなと過ごした日々そのものだから」と笑った娘を誇りに思います。仲間や先輩後輩たち、コーチや先生方、何ものにも替えられない、こんなにも愛おしい音楽を娘といっしょに創り上げてくださって、家族一同、心より感謝申し上げます。

大槌高校の魅力発信とともに進むPTA

全国大会
団体表彰

大槌高等学校 PTA会長

箱山 智美



第74回全国高等学校PTA連合大会におきまして、大槌高校PTAが、全国高等学校PTA連合会

長表彰を受賞いたしましたことをうれしく思います。

今回の受賞は、PTA先輩方の献身的な取り組みが評価されたものであるとともに、長年にわたりご協力いただいた校長先生をはじめ先生方のお力添えがあったからと思っています。敬意を払うとともに心から感謝申し上げます。

私は今回、初めて高P連全国大会に参加いたしました。6000人を超える日本各地から

全国高P連会長表彰(役員表彰)を受けて

全国大会
役員表彰

高P連 前会長

川上 博基



6月4日の岩手県高等学校PTA連合会総会において無事2年間の任期を終え、県の会長としての任務は全て終了したと思っていました。が、県の会長を務めたことで全国高等学校PTA連合会会長表彰を受けることになったため、8月21日、22日の2日間にわたって三重県で開催された第74回全国高等学校PTA連合大会に出席させていただきます。

三重県は私にとって未訪問の都道府県であったため、訪問の機会を与えていただき大変ありがたかったです。ちなみに、三重県に訪問した

第74回東北地区高P連仙台大会

7月1日(火)〜2日(水)

仙台サンプラザホール・

仙台サンプラザホテル

見つけよう

個を生かす時代のPTA活動

「一緒に探しませんか？」

多様性の時代にできること

仙台大会は大河原産業高校ギター部による演奏で開幕しました。3曲目「花笠音頭」は、昨夏の山形大会への敬意が込められているようにうなづきました。

「やる理由こそが着想を生む」「はやぶさ」「はやぶさ2」を完遂させた力」

オーストラリア国立大学教授・川口淳一郎氏による講演をいただきました。今、見えているものは過去のものであり、まだ見えていない未来を探ることが大切であるという。自分だけしか思っていないのではないか、と思う時こそチャンス。また、失敗から思いがけない発見もある。気づいて受容することから「セレンディピティ」が生まれる。小さな完成よりも何かを孕む未完成の方がはるかに大きなものがあると語られました。



▲木村会長と表彰された方々

午後は笑顔が印象的な仙台育英学園高校チャリディング部の演技で始まりました。研究協議では、岩手県からは宮古北高校の藤倉琢也先生が「小規模校のPTA活動について」と題して発表。特色ある取り組みであり、PTAの理想の形があると助言者からのコメントがありました。来年は秋田大会。なまはげの子ども「んだッチ」も登場し、仙台大会は幕を閉じました。

第74回全国高P連大会三重大会

8月21日(木)〜22日(金)

津市産業・スポーツセンター

出会いはじまる常若のくに

「集い、想い、継ぐ」

三つの重なる明日への力

1日目の開会行事では各種表彰が行われ、続いて4つの分科会が開催されました。第3分科会では、アソビジョン株式会社代表取締役 役 國友尚氏による講演「AI時代におけるWell-beingなキャリアデザイン」青春時代における感情・感動体験の重要性」が行われました。日本の子どもたちは学習到達度において世界的に高い水準にありますが、目的や使命を見出すことに悩む傾向があるといえます。心躍る体験や好奇心を原動力に、洞察力・胆力・影響力を育むことが、知識やスキルの習得につながると語られました。幅広い経験や読書が必要であり、大人の寛容な見守りが重要であると強調されました。

2日目には、井村屋株式会社代表取締役社長 中島伸子氏による記念講演「尊厳は明日の力」壁を開ける手中の鍵」が行われました。トンネル事故の生存者としての体験を通じて、生命は人類に与えられた時間であること、「自分だけの十一」を見つけることの意義を語り、誠実な心が人生の要となることを伝えられました。

「常若（とこわか）」思想に通じるPTAの在り方は、「輝く未来を切り開け」という来夏開催の大分大会サブテーマへとつながっていくと思われまます。今年も大会旗は鮮やかに翻り、2026大分大会へと引き継がれました。



▲川上前会長と佐藤事務局長

皆さんに感謝

東北大会
感謝状

大船渡東高等学校PTA前会長

大坂 英人



第七十四回東北地区
高等学校PTA連合
会仙台大大会にて感謝状
を頂戴してまいりまし
た。これまでお世話になつた皆様方には感謝
しかありません。同校でのPTA活動は楽し
いの一言に尽きます。こんなにもPTA活動
が楽しく充実した一年はありませんでした。
挨拶運動、東高祭での活動、全てにおいてPTA
会員が協力、団結をして行事を盛り上げて
もらいました。東高祭ではPTA展に参加
する会員の皆さんには息子、娘さんのクラス
マッチに着ていたクラスTシャツを着て東高
祭に参加してもらいました。せっかく作った
ので来場する皆さんにも見ていただけたと思
いPTA会員の皆様に協力していただきまし

た。会員の皆様なしには行事を成功するこ
とはなかったと思います。本当にありがと
うございました。

PTA会長に就任と共に令和六年度岩
手県調査広報委員長に任命されて私に何が
できるのだろうと思ひながら東北地区調査
広報委員会に参加致しました。東北六県の
調査広報委員長が集まり各県からの選りす
ぐりの広報紙の中から順位を決めなければ
ならず甲乙つけがたく苦慮致しました。委
員の皆様の総意で決まり安心しました。各
県の会長とも交流ができ充実した調査広報
委員会でした。今後この出会いを大切にし
ていきたいと思ひます。

皆様のお陰で貴重な経験ができたこと
感謝いたします。これからも県内PTAの
ご発展と会員の皆様のご活躍を心より祈
念申し上げ受賞の挨拶といたします。この
度は誠にありがとうございました。

支え合いの力に導かれて

東北大会
個人表彰

高田高等学校PTA前会長

中野 貴徳



このたび、東北地区
高等学校PTA連合
会会長表彰(個人表彰)
を賜り、誠に光栄に存
じます。これまで共に
歩んできた皆さまに、心より感謝申し上げま
す。

岩手県立高田高等学校PTAでは、「T
×ACTIION」を合言葉に、生徒一人ひ
とりの主体的な挑戦を支える活動を続けてま
いりました。その根底には、校長先生をはじ
めとする教職員の皆さまの熱意と、PTA

役員・会員の皆さまの惜しみないご協力が
ありました。学校と家庭、地域が一体とな
ることで、PTA活動はより豊かで温か
なものになったと感じております。

とりわけ、役員の方々相互に知恵を出
し合い、時には励まし合いながら活動を支
えてくださったことが、今日の成果につな
がっています。皆さんの存在が私の原動力
であり、この表彰はその仲間一人ひとりへ
の贈り物でもあります。

これからも、生徒の笑顔を中心に、学校
と地域をつなぐ架け橋としてのPTAの
役割を大切にしながら、未来に向けて歩み
を進めてまいります。

受賞おめでとうございます

☆令和7年度岩手県教育表彰(いわて教育の日に表彰)
水沢農業高等学校PTA

☆令和7年度全国高P連会長表彰(三重大会表彰)

〈団体表彰〉

大槌高等学校PTA

久慈翔北高等学校PTA

〈役員等表彰〉

岩手県高P連会長 川上 博 基

☆令和7年度東北地区高P連会長表彰(仙台大会表彰)

〈感謝状〉

盛岡第一高校 川上 博 基

遠野緑峰高校 阿部 一 也

岩谷堂高校 小山 静

大船渡東高校 大坂 英 人

〈表彰状〉

盛岡農業高校 荒 和 洋

水沢商業高校 古 山 恒 樹

高田高校 中 野 貴 徳

☆令和6年度第29回東北地区広報紙コンクール

◇優良賞 盛岡第二高校

盛岡二高PTA通信 令和5年度第2号

◇優良賞 盛岡北高校 MORIKITA第6号

◇奨励賞 黒沢尻北高校 黒陵vol.146

東北地区高P連仙台大会で発表して

東北大会
発表

宮古北高等学校 教諭

藤倉 琢哉



第74回東北地区
高等学校PTA連
合会仙台大大会が、7
月1日・2日、仙
台サンプラザホールで開催されました。今
年度は「見つけよう 個を生かす時代の
PTA活動」一緒に探しませんか?多様性
の時代にできること」をテーマとし、す
ばらしい講演やステージ発表などが行われ、
とても有意義な2日間でした。2日の本大
会では約1,100名の参加があったこと
です。

として総務PTA担当の藤倉が発表を行
いました。宮古北高校PTAでは、毎年
何か特別なテーマを設けて活動している
ということではありませんでしたので、研究
発表というよりは、一年間のPTA活動の
紹介という内容になりました。

他県の発表校はすべて大規模校でしたの
で、本校の小規模校の活動は、参加者の皆
様の目には新鮮に映ったようでした。どの
高校の発表も、とてもよく準備され練られ
たものでした。

ステージの上は照明が強くてまぶしく、
観客席があまりよく見えませんでしたので、
さほど緊張せずにすみしました。今回私が
発表することになるとは予想していません
でした。意外なことから発表の機会を得て、
貴重な体験をさせていただきました。あり
がとうございました。

研究協議発表について、発表者は本校の
鈴木恵PTA会長の予定であつたのですが、
他用のため出席出来ないことになり、代理

つなげよう みんなの心 未来を担う子どもたちの幸せを願い今できること 第2回保護者つながる交流会 令和7年9月24日(水) サンセール盛岡



▲全体協議の様子

第2回保護者つながる交流会は、9月24日にサンセール盛岡にて開かれました。各校のPTA会長や母親委員のほか、健全育成委員や事務局長など81名が出席。来賓には岩手県教育委員会生涯学習文化財課総括課長の藤井茂樹氏と、同課主任社会教育主事の佐々木透氏、そして秋田県高P連副会長兼輝き委員会委員長長の呼子和香子氏を招きました。

今回の講演では、日本コンディショニング協会認定講師である中田幸恵氏が登壇。同氏はマスタートレーニングインストラクターやプロフェッショナルコンディショニングトレーナーのほか、ホームヘルパーの資格も持ち、盛岡市内でフィットネススタジオ「YUI FITNESS COMMUNITY」を主宰しています。精神面と肉体的健康面などから心身の状態を整えるコンディショニングをベースとしたレッスンで、ジュニアアスリートから90代のシニアまで通っているそうです。

中田氏は、団塊ジュニア世代が65歳以上になる「2040年問題」について触れ、人口減少や少子高齢化によって人材が減ることで、医療や介護のサービスが受けにくくなることを解説。特に岩手県は、健康寿命が男女ともに全国ワ

スト1位であり、他県よりも介護のニーズが高い傾向にあります。中田氏は「自分が健康でないと、将来的に困るのはお子さんたちです」と伝え、健康に配慮した生活を心がけることの重要性を語りました。

中田氏によると、健康を維持するためには「栄養（食事）」と「運動」、そして「休養（睡眠）」という「健康の3本柱」のバランスを取ることが重要なのだそう。ただし、忙しい毎日の中で全てを理想通りに行うことは難しいため、「まずは自分ができることから始めて、継続することが大切です」と教えてくれました。

その後、参加者は中田氏の手本を見ながら、肩を揺らしたり首をさすったりとコンディショニングに基づいた運動を体験。イスに座ったまま気軽にできる動作ばかりでしたが、終了後は多くの人がスッキリとした表情を浮かべ、体の変化を実感しているようでした。

続いて、講演会の後は昨年好評だったフリートークを実施。テーブルごとに各校のPTA活動に関する取り組みや、子どもたちのデジタルリテラシーについてなど、日頃の悩みなどを話し合っていました。

その中でも特徴的な取り組みとして紹介されたのが、盛岡市立高校のおみくじ企画です。同校の文化祭で母親委員会が行ったもので、保護者から集めたメッセージをおみくじの中に入れて子どもたちに配布しました。そこには受験生への応援や、友だちとの付き合い方について悩んだときのアドバイスなどが書かれており、子どもたちからも好評だったそうです。ほかにも、保護者や友だちへの感謝の言葉を書いたメモを模造紙に張つてもらう企画を用意。子どもたちにとって、日頃はなかなか言えない気持ちを表現する大切な場になったようです。

今年のフリートークも、終了時間になっても話題が尽きず大いに盛り上がりました。同じPTA役員であり子育て世代でもある参加者にとつて、悩みを共有できる場はとても貴重なもの。「来年も参加したい」と回答する人が多く、充実した様子をにじませていました。

また、来賓として招かれた秋田県高P連輝き委員会の呼び委員長には、講演会およびフリートークに参加していただきました。閉会式では「講演会では目からウロコのように感じる貴重な情報を得ることができました。またフリートークでは笑い声が多く聞こえたのが印象的で、同じ悩みを持つ保護者同士の語らいは大切だと感じました。とても素敵な交流会になったと思います」と語ってくれました。

新しいPTAの門出 新たな『協調・創造・進取』

久慈翔北高等学校PTA会長

成田 敦子



令和7年4月に、久慈工業高等学校と久慈東高等学校が統合し、久慈翔北高等学校が開校しました。

舎では、機械コース、建設コース、総合学科の門前校舎では、人文科学系列、自然科学系列、食物系列、海洋科学系列、情報ビジネス系列、環境緑化系列、自然科学系列、介護福祉系列があり、全校生徒428名でのスタートとなります。

今まで学んできた校舎で、それぞれの特色ある専門的な知識と技術を習得するべく、生徒たちは日々奮闘しながら仲間とともに学校生活を送っています。今年6月、初

の合同開催となったクラスマッチでは、白熱しつつお互いを高め合う場面も見られ、保護者目線で胸が熱くなりました。これからの多様性を生き抜く力は、『協調・創造・進取』の校訓のもとしっかりと育てられていくでしょう。

結びに本校PTA会員の皆様をはじめ、関係する皆様のお力添えとご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、翔北の名のごとく地域の輝かしい未来のため益々発展することを祈念いたします。



▲開校式 校旗授与の様子



▲クラスマッチ



▲来賓あいさつ 岩手県教育委員会生涯学習文化財課藤井総括課長



▲開会のことば 県高P連健全育成委員会稲邊副委員長



▲講師 中田幸恵氏



▲あいさつ 県高P連木村会長



▲フリートークの様子



▲講演会の様子



▲フリートークの様子



▲フリートークの様子



▲閉会式あいさつ 県高P連湯山健全育成委員会委員長



▲閉会式あいさつ 秋田県高P連呼び副会長（輝き委員会委員長）

第35回会長研修会

令和7年10月17日（金）

会場 ホテルメトロポリタン盛岡New Wing



▲講演 佐々木豊志氏



▲木村県高P連会長
あいさつ



▲来賓・盛岡農業高校
佐藤校長あいさつ

岩手県高P連第35回会長研修会が10月17日、ホテルメトロポリタン盛岡New Wingで開かれました。県内各校から55名が参加したほか、来賓として岩手県立盛岡農業高校の佐藤紀文校長が臨席。開会式では、木村元思県高P連会長が「PTAは学校と家庭をつなぐ橋渡しの役割を担っています。時代とともにPTAの在り方は大きく変化していますが、子どもたちの豊かな教育のために橋渡しをするという目的は変わりません」とあいさつし、研修会がスタートしました。

今年の研究協議では、伊保内高校の畑中誠PTA会長と、花北青雲高校の平賀弘典PTA会長が登壇。伊保内高校では6月に開かれた「スポーツ大会」で、PTAが具だくさんの豚汁を生徒たちに振る舞い、好評を博したそうです。畑中会長は「コロナ禍が明け、PTA活動にも活気が戻ってきました。保護者が楽しんで活動することが子どもたちの笑顔につながると思うので、今後も楽しみながら活動していきたいです」と語りました。

一方、花北青雲高校はロードレース大会後にPTA主催の講演会を実施。自転車世界一周を成し遂げた坂本達氏を講師に迎え、生徒たちは夢を信じる力や前向きに生きる姿勢などを学びました。平賀会長は、「PTAが学校を訪れる度に、先生方が快



▲研究協議 質疑応答



▲研究協議 質疑応答



▲研究協議の様子

く迎えてくれます。とても良い雰囲気の中でPTA活動ができており、今後もこうした取り組みを継続していきたいです」と述べました。

両校の発表を受け、盛岡農業高校の佐藤校長は「PTAの皆さんが楽しみながら活動することはとても大切で、積極的に学校と関わることで子どもたちにも良い影響が生まれると思います。近年はPTAのデメリットが注目されがちですが、メリットにも目を向けて活動を続けてほしいです」とコメント。木村県高P連会長も「両校ともユニークな取り組みで、学校とのコミュニケーションの場にもなっていると思います。他校の皆さんも、ぜひ楽しみながら活動し、より豊かな学びの場づくりになてほしいです」と語りました。

また、講演会では「くりこま高原自然学校」の代表や「認定NPO法人みちのくトレイルクラブ」の代表理事などを務める佐々木豊志氏が登壇。「冒険体験は決断する力を育む」をテーマに講演していただきました。

佐々木氏は、「冒険には物事を理解し、論理や基準などに従って決断する力が求められます。失敗を恐れずに挑む気持ちや不屈の精神を養うことで、どんな社会の変化にも対応できる、生きる力が身に付いていく。そうした子どもたちを育てるために、どのような体験の場を作り、どう関わっていくかを考えながら活動しています」と語りました。

その後、岩手県教育委員会より自転車乗車時のヘルメット着用について協力依頼があったほか、事務局より特別助成費やPTA加入に関する注意事項などが伝えられ、閉会となりました。

高校生の自転車乗車用ヘルメット着用促進に向けて

岩手県教育委員会では、岩手県警察本部のご協力のもと、県内児童生徒の生命や心身の安全確保を最優先に考えた取組を進めているところです。令和5年4月1日から改正道交法が施行され、全ての自転車利用者のヘルメット着用が「努力義務化」となり2年余が経過しましたが、岩手県警察本部の調査では、年代別ヘルメットの着用率は、全体的に昨年よりも向上したものの、依然として「高校生の着用率が最も低い」状況となっております。

▼「R7」高校生15・9%（全体22・8%）
▼「R6」高校生12・8%（全体20・3%）

自転車乗車中の交通事故による死者の「約6割が頭部に致死傷」を負っており、また、自転車乗車中の交通事故において、ヘルメット非着用者の致死率は、ヘルメット着用者に比べて「約1・4倍」高くなっていることから、ヘルメットは、頭部の保護に有効であり、事故に遭った際に命を守ります。

県内県立高校においては、ヘルメット着用を自転車通学の条件とする動きが増えてきております。また、CM制作を通じて交通安全について考えるなど、交通安全意識の高揚に向けた取組も行われております。県教育委員会では、全ての県立学校において条件化となるよう、引き続き働きかけてまいりますので、保護者の皆さまにおかれましては、自らを守るため、自転車を運転する時はヘルメットを着用するよう、ご理解と協力をお願いいたします。

▼令和6年度「高校生交通安全テレビCMコンテスト」

「グランプリ」
黒沢尻北高校 放送部「命か前髪か」

「準グランプリ」
盛岡第一高校 放送委員会
「あなたのこと、守ります。」

盛岡白百合学園高校 めっちゃかわ放送部
「守りたい、この命」

岩手県教育表彰を受けて

水沢農業高等学校PTA会長

高橋 辰幸



▲PTA交流会（パン教室）



▲PTA屋台（水農祭）

この度、栄えある岩手県教育表彰を頂き誠に嬉しく思っています。

これまで本校のPTA活動にご協力いただいた保護者の皆様をはじめ、教職員や同窓生・先輩方そして地域の皆様方のおかげだと心より感謝申し上げます。我が校の会員は100人前後と小規模ではございますが、その特性を活かし保護者と教職員そして生徒が協働で事業運営を行っております。

地域の周辺施設にPTA活動で制作したプラントを設置する美化活動を実施、文化祭では生徒たちや来校者が共に楽しめる企画を生徒会役員と協力し取り組んでいます。

また、会員交流会で生徒の学習成果を広く伝える機会をつくるなど、各種事業への参加者の増加に尽力しており、生徒の健全育成と社会教育の振興にPTAとして尽力していることが評価されたのだと思っております。

私が目指すPTAの形として「アットホームなPTA」があり、生徒・教職員・保護者が気軽になんでも話せる場で、みんなで楽しんでいる場所になりたいと考えて活動しております。小規模なPTAだからこそ出来ることを考えこれからも我が校に関わる全ての人と笑顔になれるような活動をして行きたいと思っております。この度は本当にありがとうございました。

第55回 事務局長研修会

令和7年11月14日(金)
会場／サンセール盛岡(盛岡市)

第55回事務局長研修会には61校が参加し、来年度の予定や加入PTA会員数などについて事務局から説明がありました。すべてのPTA会員が加入する「全国高P連賠償責任補償制度」の手引は、冊子からPDFへ切り替わり、1月中旬にメールで配布される予定です。

なお、全国的に問題になっているPTA未加入問題について、現在岩手県高P連では、ほぼ全員が加入している状況です。今後入学式後のPTA説明会等で、PTAの意義や活動等について十分に説明をおこなった上で、加入は任意であるが全員加入を丁寧をお願いしてほしいと呼びかけました。

また、今年度の特別助成費については、申請額が予算を大きく上回ったため、小規模校や新設校を優先する対応となりました。今後も状況に応じて同様の措置が考えられますが、不明な点がある場合は事務局までお問い合わせください。

本研修会に関する事前アンケートでは、「PTA総会の委任状を電子化している学校を知りたい」という声が寄せられました。すでに電子化を進めている学校もありますが、委任状は紙で作成するのが一般的なため、導入する際は規約にその旨を明記しておくとう安心です。

最後に、地区ごとに分かれて来年度の打ち合わせが行われ、終了した地区から順次解散となりました。



「風の便り」

岩手県高P連会長
木村 元思

先日、ある番組で「非認知能力」を意図的に高めるための習い事がビジネス化され、近年急速に拡大しているとの報道に驚いた。

非認知能力は、レジリエンス、創造力、洞察力、自己肯定感、協調性など数値化されにくい能力として定義されるが、本来は子どもたちの普段の集団遊び、自然とのふれあい、学校での部活動をはじめとする協働活動の中で、ごく自然に育まれる力だと理解していたからだ。

こうしたビジネスが必要とされる背景には、子どもを取り巻く社会環境の変化はもとより、教育現場へのITやAI導入が、少なからず心理的な影響を与えているのだろうと感じる。例えば、生成AIを活用すれば、誰でも必要な時に、必要な情報を、必要な量だけ瞬時に享受できる。まさに学力や知能といった認知能力を効率よく蓄積できる合理的な学習システムであることは確かだ。

一方で、そのようにして「編集済みの与えられた知識」は、自分にとって都合の良い、限定された情報で構成される傾向が強く、私たちはその信頼性を疑う「ひと手間」を省く認知バイアスに陥りがちだ。ゆえに、情報過多の時代に生きる子どもたちにとって、常識を疑う力や多様性を許容する力を育むために、異なる価値観を持つ人や不確実性に富んだ自然との関わりを通じて、より主体的な学びの場がこれまで以上に必要とされているのだろう。

私たち親世代もまた、固定観念という殻から脱却し、常に視野をクリアに保つことを心掛けたい。そんな時、PTA活動で交わされる確かな「風の便り」が、その助けになることを期待している。

がんばる岩手

黒沢尻工業高等学校PTA会長 武田 健



今後のPTA活動
へのコロナの影響

令和5年5月のコロナ5類移行から2年が経過しました。皆さんの生活は、コロナ禍前の活動水準を取り戻すことが出来たでしょうか？

私の子供は令和5年度入学であることから、コロナ禍と比較すれば部活等は活発に、生活は穏やかに、コロナ禍以前の水準に近い形で生活できているのではないかと感じています。一昨年には文化祭も開催でき、感染等に配慮しながら食堂の経営や、食品販売等の物販も実施しました。

PTA活動では、研修旅行や企業見学、役員の懇親会を実施し、先生と保護者間の親睦を深めることもできました。一方で、コロナ禍での感染防止という経験は、オンラインなどの集まらなくても協議等が可能となる便利なツールをもたらした反面、人が集う機会を減少させ、見直しや中止の対象となった活動も少なくないのではないのでしょうか。

活動が縮小すれば、PTAの趣旨に賛同いただける方も少なくなり、教育環境の整備という一役を担うPTA活動にも支障をきたす可能性もあります。

活動の水準がコロナ禍以前に戻つつある現在、我々に必要なことは、PTAが教育環境の整備に必要な不可欠な組織であることを再認識するとともに、生徒、保護者、学校の三者にとって有益となる活動の方法を模索することではないかと感じています。

今後もPTAの趣旨をご理解の上、保護者、教員の皆様の御協力をお願いし、黒沢尻工業高等学校からの報告とさせていただきます。



▲研修旅行(八戸)



▲企業見学(半導体工場)



▲黒工祭(ママカフェ)



▲教育振興費で購入した事務用品



▲黒工祭(土木科)

岩手県高P連委員会活動報告

第2回保護者つながる交流会を開催



健全育成委員長
湯山 栄大
(一関第二高等学校)

6月18日にサンセール盛岡にて第1回委員会を開催し、今年度の活動について協議を行いました。今年度も引き続き、登校時一声運動・マナーアップ運動、自転車保険加入・ヘルメット着用状況調査及び第2回保護者つながる交流会を実施することとなりました。

各校におかれましては、登校時一声運動・マナーアップ運動の実施報告及び自転車保険加入・ヘルメット着用状況調査報告にご協力いただき、ありがとうございます。今後も子ども登下校時の様子を見守ると共に、交通事故の「被害者にならない、加害者にさせ

ない」ことを目的とし、交通ルールの順守をふまえた本活動へのご協力をお願いいたします。

また、9月24日に開催した第2回保護者つながる交流会では、多くの皆様に参加いただき心より感謝を申し上げます。本交流会は「つなげようみんなの心 未来を担う子どもたちの幸せを願う今できること」をスローガンに、情報交換や研修を通して課題を共有し、PTA活動につながることを目的として、昨年度より開催しております。

グループに分かれてのフリートークでは、限られた時間の中で、各校のPTA活動の紹介や子育ての悩みなどを共有することができ、参加者の笑い声と笑顔あふれる時間となりました。

保護者つながる交流会は、単位PTA母親委員会の有無や性別に関わらず参加できますので、支えあう仲間づくり、情報交換の場として、次年度以降も多くの皆様に参加いただきますようよろしくお願いいたします。

進路について



進路対策委員長
笹花 弘行
(山田高等学校)

本年度進路対策委員会の委員長を務めさせていただきます山田高校PTA会長の笹花弘行です。

去る6月10日に山形市で東北地区高P連総会並びに第1回各委員会が開催され、前年度担当の山形県から引き継ぎを行いました。東北地区各県の対策委員の方々と連携を図りながら、意見交換する中で、保護者として子供の進路にどのような意図とどの程度関わったらいかがかという意見が出され、出来るだけ本人の希望を尊重しつつ将来失敗のない進路を目指してほしいという願いは全員同じであると感じました。

情報交換の中で、各県から高校（大学）を卒業し、就職した後の「離職・転職」について話題に挙がりました。その中で、「離職・転職」には「仕事に合わない、人間関係」等の理由から職場を離れる場合と自分自身のキャリアアップや起業のため職場を離れる場合があるという意見が出ました。これらの状況を実際のデータを基にさらに研修を深めたいということで、9月5日の第2回東北高P連進路対策委員会では講師を招き、学ぶことになりました。また、12月5日の第2回進路対策委員会でも第3回東北高P連進路対策委員会でも講師を招き、多くのことを学びたいとお考えしております。12月は県内各地区の対策委員も積極的に参加していただき、多くのことを研修するとともに保護者としてネットワーキングを広められる良い機会にしたいと思っています。

保護者として、そしてPTA役員として、子供たちの進路にどのように関わっていくのかという保護者同士が語り合える場として、この進路対策委員会の皆様と連携を図りながら進めていきたいと思っています。今後ともよろしくよろしくお願いいたします。

岩手県学生会館入寮生募集

～初めての東京生活を支える安心の寮生活～



【会館施設概要】

●所在地
〒171-0043
東京都豊島区要町2-5-5
JR池袋駅まで徒歩15分、
東京メトロ要町駅徒歩5分

●資格

岩手県出身者で大学院、大学、短期大学、専門学校等に通学する人

●寮費(令和7年4月1日より改定)

月額 90,500円(朝夕2食・自治会費含む)
入寮時諸経費 入 寮 金 60,000円
寮維持資金 60,000円

●室内 洋室13.5㎡(全室個室)

●設備 机、本棚、ベッド、クローゼット、洗面化粧台、冷暖房器等

【申し込み・問い合わせ】

公益財団法人 岩手県学生援護会(岩手県学生会館内)
TEL:03-3972-4783

※募集要項、申込書類はホームページから

<http://www.gakuseikaikan-iwate.or.jp/>

広報紙を通じて魅力発信を



調査広報委員長
小野寺 幸司
(福岡高等学校)

日頃より調査広報委員会活動にご協力を賜り心から感謝申し上げます。特にも、当委員会が主催する広報紙コンクールにご協力頂いておりますことにお礼申し上げます。

今年度の委員会活動は、6月の東北高P連第1回委員会からスタートし、年度内に3回の委員会を予定しております。主な活動は、広報コンクールの実施で各県から推薦頂いた広報紙を審査するという大役を担うこととなります。8月の第2回委員会においては、模擬審査会と専門家から審

査に向けた助言を頂きました。全委員が初めて担う役割ということで、「どのような視点で審査をすれば良いのか?」「個人的価値観になりかねない」と不安な事ばかりでしたが、専門家のお話をお聞きしたことで、審査するにあたっての共通認識を得ることができました。2月の第3回委員会では、今年度の本審査となりますので心して審査に望みたいと思います。

県高P連の調査広報委員会の活動につきましては、6月の第1回委員会から2月の第3回委員会を予定しております。県委員会では、東北高P連広報紙コンクールへ推薦する広報紙3作品を審査することが中心となる活動となります。こちらについても、審査委員が共通の視点を持ちながら審査できるように進めて参りたいと思います。

今後も広報紙を通じて各校の魅力が発信されますことを願っております。

おらほのPTA

りんごとともに

岩手県立盛岡ひがし支援学校
PTA会長

鷹觜 正輝



本校は、平成三十一年四月に開校したばかりの学校で、現在小学部から高等部まで百六十五名の生徒が学んでいます。

本校が開校し、PTA活動を行おうとしていた矢先、新型コロナウイルス感染症が蔓延し、思うように活動する事が出来ず、PTAの歴史も浅かったこともあり、活動の企画・運営は事務局が主体となっていました。

令和五年に新型コロナウイルス感染症が5類となり、PTA活動も少しずつ動き始め、最近では、保護者の方々がお互いに思うことを声に出し、「とりあえずいろいろな事を試してみよう」「やつてみてダメであれば修正していこう」というスタイルへ変更してみました。

子どもたちの将来を考え、卒業後の進路先となる施設見学会を行ったり、グループホームの職員を学校に招き、各事業所の特色を聞くような研修会に取り組んだりしました。また、小学部を



▲PTA施設見学会



▲親子レク 大玉転がし



▲PTA研修会 グループホーム事業所を招いた研修会

生徒一人ひとりが主役

岩手県立沼宮内高等学校
PTA会長

高橋 正次



沼宮内高等学校は、昭和23年4月に開校し、もうすぐ80周年を迎える学校です。

令和7年度は21名の新入生を迎え全校生徒71名。小規模の学校ではありますが、その特長を生かし、先生方は子ども達一人ひとりと距離が近く親身に接していただき、子ども達も生き生きと学校生活を送ることができております。沼宮内高等学校と言えばホッケー部、全国区の運動部ですが、ホッケーに限らず全ての子ども達が輝いています。先生方には本当に感謝申し上げます。

さて、本校のPTA活動ですが、今年度より、PTA会長を拝命し右も左もわからないまま、副会長、各学年役員、すべての保護者、先生方のご協力をいただきながら事業を進めております。まずは、登校時一声運動（6月・9月）保護者、先生方により通学路・校舎周辺にて実施。次に、体育祭にて昼食時の「PTAおふるまい」（6月）調理室にて麺類・おにぎり・唐揚げ・フランクフルト・かき氷等を子ども達に提供、大好評でした。また、10月開



▲登校時一声運動



▲体育祭おふるまい

催予定の沼高祭（文化祭）では、保護者と同窓会が協力し参加する企画を現在進めております。保護者のみなさまには、自分が学校に對し何が出来るか真剣に考え、積極的に参加していただいていることに感謝申し上げます。

PTA活動は、子ども達のためのもの、生徒一人ひとりが主役でいきいきと有意義な学校生活を送れるようこれからも先生方、地域と連携し活動して参りたいと思います。

対象とした「親子レクリエーション」を行い、親子そろって楽しい時間を過ごすような活動も行っています。

小高い丘に聳え立つ本校からは都南地区が一望でき、周辺の地区にはりんご畑が多く、のどかな場所でも子どもたちは学校生活を過ごしていますが、年代ごとに「りんご」と様々な関わり方をしています。皆さんが「りんご」を手にする際、ひがし支援学校の生徒の事を少しでも思っていただければ嬉しいのです。

編集後記

日頃より県高P連広報紙の活動にご理解、ご協力を賜り誠にありがとうございます。特にも、投稿いただきました皆様にご心からお礼を申し上げます。

今年度、調査広報委員会に関わらせていただきこれまでの、他校の広報紙を見る機会はありませんでしたが、委員会活動を通じて、県内のみならず東北6県の広報紙を拝見することができました。実際は、拝見というレベルではなく、審査員の目でじっくりと拝見しました。広報紙個々に学校の特徴が紹介されておりました。PTAの広報紙ですので、PTA活動の紹介はもとよりなかなか学校の様子を見る機会がない保護者にとっては、子ども達の様子が紹介されていることも重要な役割を広報紙が担っているものと思います。

今の時代は、デジタル社会となり子ども達の学習はパソコンやタブレット機器を利用した学習が定着しています。また、メール等を活用した保護者への連絡も当たり前です。東北地区の高校でもPTA広報紙を紙媒体ではなく、IT機器を用いて保護者に見てもらいたい配慮を導入する事例もあります。広報紙の在り方も変革の時かもしれません。

最後になりますが、今後も県高P連広報の発行に向けて皆様のご協力をお願いいたします。

（調査広報委員長・小野寺 幸司）

（編集委員）調査広報委員会

委員長 小野寺幸司（福岡高校）
副委員長 立桶 善孝（軽米高校）
委員 新坂 正章（南宮みらい高校）
平賀 弘典（花北青雲高校）
及川由里子（高田高校）

◇事務局

駒本 広枝（福岡高校）
佐藤 尚（県高P連）
木村 智子（県高P連）